

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 5 年 5 月 22 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	研究会	行事番号	230000397	
開催日	令和 5 年 5 月 20 日 (土)			
時間	開始	15 時	終了	17 時
場所	リップルスクエア			
テーマ	術中迅速凍結標本作製			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	小牧市民病院 藤田 智洋			
講師	<p>講演 1. 「凍結標本の基礎知識とアンケートからわかった施設間の違い」 碧南市民病院 加藤 皓大</p> <p>講演 2. 「凍結標本作製におけるアーチファクトとその対策」 豊橋市民病院 宮野 拓也</p> <p>講演 3. 「免疫染色の WSI を用いた評価とデジタルパソロジーシステムについて」 ロシュ・ダイアグノスティックス株式会社 吉田 伶奈</p>			
内容	<p>講演 1 では、凍結標本の基礎知識を学び、班員施設の迅速凍結標本作製に対してアンケート結果を交えて考察して頂いた。現状を知ったがどの施設も少しずつ違いがあり、標準化には程遠い印象であった。また講演 2 では、凍結標本作製におけるアーチファクトを見て、その対策を説明して頂いた。実際の作製動画も見ることができ、工夫や状況を把握できた。若手からベテランまで参考になる会であった。後半講演 3 では、標本の保管・管理など今後のデジタルパソロジーシステムの利用について解説して頂いた。さらに免疫染色の評価も応用ができ、将来役に立つ情報を頂いた。</p>			
参加者	総数：64 名（会員 61 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 3 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：57 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 5 年 6 月 19 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	講演会	行事番号	230001275	
開催日	令和 5 年 6 月 17 日 (土)			
時間	開始	15 時	終了	17 時
場所	リップルスクエア			
テーマ	免疫染色を見直そう			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	藤田医科大学 ばんだね病院 川島 佳晃			
講師	講演 1. 「免疫染色の基礎」 豊川市民病院 山川 貴章 講演 2. 「免疫染色の精度管理」 名古屋大学医学部附属病院 原 稔晶 講演 3. 「病理診断の考え方と免疫染色の活用」 社会医療法人宏潤会 大同病院 小島 伊織			
内容	免疫染色を見直そうをテーマに、前半は免疫染色の基礎から精度管理まで幅広く学ぶことができた。後半は、病理診断の考え方と免疫染色の活用と題して、病理医が普段どのように診断しているのかを聞くことができた。また、疾患ごとに免疫染色の抗体選びや無駄のない組み合わせから診断へのプロセスを病理医の視点で聴講できた。今回は、自施設の運用を見直す良い機会で、さらに病理医の貴重な話より有意義な講演会であった。			
参加者	総数：55 名（会員 55 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、）・申込総数：58 名			
共催、後援など	なし			

2022.10.12

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 5 年 10 月 30 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	基礎講座	行事番号	230011412	
開催日	令和 5 年 10 月 29 日 (日)			
時間	開始	9 時 00 分	終了	16 時 10 分
場所	修文大学			
テーマ	甲状腺 Up to date ～もう怖くない甲状腺～			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	講演 1. 公立西知多総合病院 吉本 尚子 講演 2. 刈谷豊田総合病院 林 直樹 講演 3. 愛知医科大学病院 櫻井 包子 講演 4. 公立陶生病院 柚木 浩良			
講師	講演 1. 「甲状腺総論」 修文大学 橋本 克訓 講演 2. 「甲状腺組織診」 藤田医科大学ばんだね病院 浦野 誠 講演 3. 「甲状腺細胞診」 隈病院 鈴木 彩菜 講演 4. 「甲状腺細胞診 標本作製・検鏡実習」 隈病院 鈴木 彩菜			
内容	<p>講演 1 甲状腺総論では、甲状腺の病理解剖から機能まで一から学び直した。講演 2 甲状腺組織診では、切り出しから組織像まで幅広く学んだ。最近、取り扱い規約が新しくなり、変更点を詳しく解説していただいた。NIFTP の概念や社会的背景も知り、モヤモヤがスッキリ解決した。講演 3 甲状腺細胞診では、講演 2 の組織像を頭に浮かべながら、甲状腺の細胞の見方を一から学び直した。どうやって診断に向かうかの過程で遭遇する細胞を読み解いて解説してもらえた。午後からの講演 4 では、甲状腺細胞診をライブ形式で標本鏡検した。今までに無い試みで、講師の先生がどのように細胞をみているのか、どのように評価しているのかがわかり、コツを吸収することができた。途中、お悩み相談症例を持ち寄り、困っていることや、その細胞をどの様にとらえ、診断に結びつけるのかを丁寧に解説いただいた。最後に標本作製の講演では、動画を交え、分かりやすく、参加者の目線でご指導いただいた。明日から甲状腺に関して怖くない、むしろ楽しみになる講座であったと思う。業務の糧になる内容を企画出来たと自負している。</p>			
参加者	総数：41 名 (会員 37 名、県外会員 4 名、非会員 名、賛助会員 名、学生 名、その他 名、) ・申込総数：42 名			
共催、後援など	なし			

## 愛臨技学部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 5 年 12 月 18 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	研究会	行事番号	230016147	
開催日	令和 5 年 12 月 16 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (現地開催)			
テーマ	薄切のアーチファクトを学ぶ			
生涯教育履修点数	専門教科 20 点			
司会	西尾市民病院 中村 広基			
講師	講演 1. 「病理医の嫌うアーチファクト」 安城更正病院 高須 大輔 講演 2. 「ベテラン技師に学ぶアーチファクト対策 (アンケート調査報告)」 愛知県がんセンター 大島 康裕 講演 3. 「マイクローム技術者の頭を悩ませるアーチファクト」 大和光機工業株式会社 中島 永幸			
内容	<p>薄切時のアーチファクトをテーマに、講演 1 では、病理医が嫌っているアーチファクトの集計結果を知り得た。技師がアーチファクトに対し、再作製をする集計結果も知り得た。病理医は診断に直接影響がない場合は気にならないが、診断に影響があるコンタミ、虫食い、面だし不良は再作製を求める声が多かった。さらに鏡検しにくいチャタリングや厚さムラも再作製を求める声が多かった。コンタミやシワは技師の方が再作製をすることが多いが、病理医はさほど気にならない印象であった。技師と病理医の価値観のズレを修正するため参考になる発表であった。講演 2 では、薄切時の様々なアーチファクトに関して、その対策をベテラン技師から学ぶ講演内容であった。技術的な側面の強い薄切は、独学で学ぶには難しいものであるが、今回ベテラン技師の薄切動画は大変参考になるものであった。この動画は HP 上でアップしたい内容で、高い技術を広く共有できるよう検討したい。後半は、メーカーの立場からマイクロームに起因するアーチファクトの対策を詳細にご説明頂いた。メーカーだから知り得る情報や対策を分かりやすい図表や画像で解説された。熟練技師の薄切技術に頼らない方法で何とか誰にでもきれいな薄切ができるようマイクロームの設計や条件 (環境) を研究されていた。特性や対策を知ること、薄切スキルが格段に上がる有意義な研究会となり得たと思う。</p>			
参加者	総数：40 名 (会員 40 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、) ・申込総数：41 名			
共催、後援など	なし			

## 愛臨技学術部研究班活動報告書

所属：病理細胞検査研究班 提出日：令和 6 年 2 月 18 日 報告者：柚木 浩良

行事種別	研究会	行事番号	230021367	
開催日	令和 6 年 2 月 17 日 (土)			
時間	開始	15 時 00 分	終了	17 時 00 分
場所	リップルスクエア (現地開催)			
テーマ	精度管理報告／染色サーベイ報告			
生涯教育履修点数	基礎教科 20 点			
司会	公立陶生病院 柚木 浩良			
講師	講演 1. 「病理部門精度管理報告」 名古屋市立大学病院 松井 竜三 講演 2. 「細胞部門精度管理報告」 JA 愛知厚生連 渥美病院 水谷 三希子 講演 3. 「精度管理を通じて学んだこと」 広島大学病院 石田 克成			
内容	前半は、令和 5 年度の愛臨技精度管理調査の結果報告と解説を詳しく行った。アンケートの結果についても報告した。次の後半では、全国で病理精度管理の活動を行っている講師によるサーベイのご講演を頂いた。具体的な取り組みや、評価や問題点など解説された。また、精度管理設問作成の裏話や設問の意図やポイントも聞け、大変勉強になった。さらには、広島大学病院の最新の機器や運用について提示があり、参考になることばかりであった。実際、施設を見学した気分になる内容であった。自施設で取り入れることができそうな事例が多かった。明日から役立つ内容であったと思う。			
参加者	総数：42 名 (会員 42 名、県外会員 0 名、非会員 0 名、賛助会員 0 名、学生 0 名、その他 0 名、) ・申込総数：40 名			
共催、後援など	NPO 法人 日本病理精度保証機構			

2022.10.12